

# 薬学 部

薬学 科

薬科学 科

医療栄養学 科

# 履修の手引と手続 (薬学科)

## I 授業科目について

薬学部薬学科における授業科目は、基本科目（講義・演習）、専門科目（講義、演習、実習）及び関連科目からなっている。授業科目のうち、基本科目は1年次に、関連科目は1～3年次に履修する。

## II 授業科目の単位と認定

本学では単位制が採用されている。単位制とは、一つ一つの授業科目に一定の基準により定められた単位があり、履修した授業科目に対して、試験その他の方法により学習評価をしたうえでその単位を認定する制度である（学則第15条参照）。

単位認定の評価は、S・A・B・Cにより単位を修得したことを示す。

## III 進級基準

1. 当該学年に配分されている必修科目（基本科目及び専門必修科目）の単位を修得しなければ進級できない。ただし、未修得必修科目数が3科目以下の者の進級を認めることがある。なお、未修得必修科目数とは、下級学年の未修得必修科目数をも加算されたものをいう。また、3年次から4年次への進級にあたっては、関連科目（8単位以上）を必ず修得していなくてはならない。

進級の詳細については、「進級判定の対象となる科目」の表（第1表）の進級条件を参照のこと。

2. 正当な理由なく複数回留年したものについては、学則に従い適当な処置を講ずるものとする。

### 3. 進級判定の対象となる科目

第1表

		1年→2年	2年→3年	3年→4年	4年→5年	5年→6年
		科目名	科目名	科目名	科目名	科目名
基本科目	講義	コミュニケーション基礎英語A コミュニケーション基礎英語B コミュニケーション基礎英語C コミュニケーション基礎英語D				
	演習	フレッシュマンセミナー(薬学)A フレッシュマンセミナー(薬学)B				
専門科目	講義	薬学概論 物理化学A 物理化学B 無機化学 基礎有機化学 有機化学A 生物学A 生物学B 細胞生理学 生理学A 解剖学 微生物学	物理薬剤学A 物理薬剤学B 分析化学A 分析化学B 有機化学B 有機化学C 生薬学 生理学B 生化学A 生化学B 免疫学 病原微生物学 基礎栄養学 基礎薬理学 薬理学A 病態学A	医薬品化学 漢方薬 生化学C 公衆衛生学A 毒性学A 毒性学B 薬理学B 薬理学C 生物薬剤学 病態学B 病態学C 薬物治療学A 薬物治療学B 調剤処方学 社会と薬学	公衆衛生学B 製剤学 医療栄養学 薬物治療学C 医薬品情報学 医薬品開発・治験論 薬剤師関係法制度概論 コミュニティファーマシー論	
	演習		薬学英語入門 薬学総合演習A	実用薬学英語 薬学総合演習B 生物有機化学演習 生物統計学演習	コミュニケーション体験演習 薬学総合演習C 薬物治療演習 調剤処方演習 臨床実習前講義A 臨床実習前講義B	臨床後演習
	実習	薬学実習A 薬学実習B	薬学実習C 薬学実習D	薬学実習E 薬学実習F	臨床前実習A 臨床前実習B	薬局実習 病院実習
進級条件		1) 基本科目の講義と演習及び専門科目(必修)の講義と演習の未修得が3科目までは進級を認めることがある。 2) 専門科目の実習は全科目修得のこと。	1) 基本科目の講義と演習及び専門科目(必修)の講義と演習の未修得が3科目までは進級を認めることがある。ただし、薬学総合演習Aは修得のこと。 2) 専門科目の実習は全科目修得のこと。	1) 基本科目の講義と演習及び専門科目(必修)の講義と演習の未修得が3科目までは進級を認めることがある。ただし、薬学総合演習Bは修得のこと。 2) 専門科目の実習は全科目修得のこと。 3) 関連科目8単位修得のこと。	1) 基本科目の講義と演習及び専門科目(必修)の講義と演習の未修得が3科目までは進級を認めることがある。ただし、薬学総合演習Cは修得のこと。 2) 専門科目の実習は全科目修得のこと。	1) 基本科目の講義と演習および専門科目(必修)の講義と演習の未修得が3科目までは進級を認めることがある。 2) 専門科目の実習は全科目修得のこと。

#### IV 卒業について

- 卒業可能最低科目数及び単位数は第2表に示すとおりである。

第2表

系列		項目	科目数	単位数
基本科目			6	10
専門科目	必修		79	160
	選択*		4以上	8
関連科目			4以上	8
計			93以上	186

※選択科目のうち、アドバンスト薬学分野の科目を1科目2単位含むこと。

#### V 授業科目の学年配当と修得すべき単位数

薬学科では、豊かな人間性を有し、地域に貢献する薬剤師としての資質・能力の醸成のため、「基本科目」、「専門科目」、「関連科目」を配置し、体系的なカリキュラムを編成している。

##### 1. 基本科目

基本科目は、大学における学習方法や、学生生活の指導を通して自立した社会人としての意識づけを行うこと、及び英語の修得にあてられる（第3表）。

- 基本科目は、すべて必修科目であるから必ず修得しなければならない。
- 基本科目は1年次に履修するものとする。

#### 学年配当表

[薬学科]

第3表

※単位数に○印を付してある科目は必修を示す。

系列	授業科目	薬学科分類 コード	配当時期及び単位数					
			1年	2年	3年	4年	5年	6年
基本 科目	コミュニケーション基礎英語A	LA 1-1_1	②					
	コミュニケーション基礎英語B	LA 1-1_2	②					
	コミュニケーション基礎英語C	LA 1-1_3	②					
	コミュニケーション基礎英語D	LA 1-1_4	②					
	フレッシュマンセミナー(薬学)A	GE 1-1_1	①					
	フレッシュマンセミナー(薬学)B	GE 1-1_2	①					

## 2. 専門科目

専門科目は、高い専門性を有し、高齢者医療、在宅医療を含む地域の医療の場で活躍し得る薬剤師を養成するために必要な科目として配置されている。基礎薬学分野には、医薬品を化学物質として理解するための、また、生体の仕組みの基礎を理解するための科目、衛生薬学分野には環境と健康の関連を理解するための科目、医療薬学分野には疾病と治療法を理解するための科目、また、医薬品を管理し、投薬することに関わる知識・技能を修得するための科目、臨床薬学分野には薬剤師として疾病の予防や患者の治療を行う能力を得るための科目、アドバンスト薬学分野には薬剤師としてのより高い専門性を獲得するための科目、語学・教養、実験・研究、および総合領域には、医療人・薬剤師としての素養を養い、自覚をそだてるための科目、修得した知識・技能を広範囲な領域で応用・展開するための科目を配置している。

専門科目は、必修科目、選択必修科目、及び選択科目からなる。専門必修科目、及び専門選択科目・専門選択必修科目の学年別配当数は第4表、各科目の学年配当は第5表のとおりである。

- (1) 卒業するために、専門必修科目は79科目(160単位)を修得しなければならない。
  - (2) 卒業するために、専門選択科目は4科目以上(8単位以上)を修得しなければならない。
- ただし、アドバンスト薬学分野の科目を1科目2単位含むこと。

第4表

年次	必修		選択必修		選択	
	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数
1年	14	24	0	0	1	2
2年	20	38	0	0	2	4
3年	22	40	0	0	6	10
2年～3年のいずれか	0	0	0	0	1	1
4年	16	24	1	2	2	3
2年～4年のいずれか	0	0	0	0	1	1
5年	3	21	0	0	0	0
6年	3	3	0	0	1	2
1年～6年のいずれか	0	0	0	0	3	6
4年～6年のいずれか	0	0	3	6	9	15
4年～6年	1	10	0	0	0	0
計	79	160	4	8	26	44

学年配当表

[薬学科]

第5表

※単位数に○印を付してある科目は必修を示す。

□印を付してある科目は選択必修を示し、これらのうち1科目を選択する。  
 なお、選択必修科目「栄養・薬学マネジメント論」は4年次のみに配当する。

系列	分野	科目名	薬学科分類 コード	配当時期及び単位数					
				1年	2年	3年	4年	5年	6年
専門科目	語学・教養	薬学英語入門	LA 1-1_5		①				
		実用薬学英語	LA 1-1_6			①			
		海外薬学英語研修Ⅰ	LA 1-1_7	2					
		海外薬学英語研修Ⅱ	LA 1-1_8	2					
		海外薬学英語研修Ⅲ	LA 1-1_9	2					
	総合領域	薬学概論	GE 1-1_3	①					
		コミュニケーション体験演習	GE 1-1_4				①		
		薬学総合演習A	GE 2-1_5		①				
		薬学総合演習B	GE 2-2_6			①			
		薬学総合演習C	GE 2-3_7				①		
		薬学総合演習D	GE 2-4_8						①
		統合演習	GE 2-4_9						①
	基礎薬学分野	物理系	物理化学A	PS 1-1_3	①				
			物理化学B	PS 1-1_4	②				
			物理薬剤学A	PS 1-2_5		②			
			物理薬剤学B	PS 1-2_6		②			
			分析化学A	PS 1-2_7		②			
			分析化学B	PS 1-2_8		②			
			物理化学演習	PS 1-3_9				1	
		化学系	無機化学	CM 1-1_1	②				
基礎有機化学			CM 1-1_2	①					
有機化学A			CM 1-1_3	②					
有機化学B	CM 1-2_4			②					

系列	分野	科目名	薬学科分類 コード	配当時期及び単位数						
				1年	2年	3年	4年	5年	6年	
専門科目	化学系	有機化学C	CM 1-3_5		②					
		有機化学演習	CM 1-2_6		1					
		生物有機化学演習	CM 1-3_7			①				
		医薬品化学	CM 1-3_8			②				
		生薬学	CM 2-1_9		②					
		天然物化学	CM 2-1_10			2				
		漢方薬	CM 2-2_11			②				
	基礎薬学分野	生物系	生物学A	BI 1-1_1	①					
			生物学B	BI 1-1_2	②					
			総合生物	BI 1-2_3		2				
			細胞生理学	BI 1-1_4	②					
			生理学A	BI 1-1_5	②					
			生理学B	BI 1-2_6		②				
			生化学A	BI 1-2_7		②				
			生化学B	BI 1-3_8		②				
			生化学C	BI 1-4_9			②			
			解剖学	BI 2-1_10	②					
			免疫学	BI 3-1_11		②				
			微生物学	BI 4-1_12	②					
			病原微生物学	BI 4-2_13		②				
	衛生薬学分野		基礎栄養学	HE 1-1_1		②				
			公衆衛生学A	HE 1-1_2			②			
			公衆衛生学B	HE 1-1_3				②		
公衆衛生学C			HE 1-1_4				2			
毒性学A			HE 2-1_5			②				
毒性学B			HE 2-2_6			②				
放射化学実習			HE 2-3_7				1			
薬毒物分析			HE 2-3_8						2	

系列	分野	科目名	薬学科分類 コード	配当時期及び単位数					
				1年	2年	3年	4年	5年	6年
専門科目	医療薬学分野	基礎薬理学	MD 1-1_1		②				
		薬理学A	MD 1-1_2		②				
		薬理学B	MD 1-2_3			②			
		薬理学C	MD 1-3_4			②			
		生物薬剤学	MD 2-1_5			②			
		薬物動態学	MD 2-2_6			②			
		製剤学	MD 2-3_7				②		
		医療における栄養	MD 3-1_8	2					
		医療における食品学	MD 3-1_9		2				
		食品機能学	MD 3-1_10			2			
		食品調理加工学実習	MD 3-2_11			1			
		病態学A	MD 3-1_12		②				
		病態学B	MD 3-2_13			②			
		病態学C	MD 3-3_14			②			
		ライフステージ栄養学	MD 3-3_15			2			
		栄養・薬学マネジメント論	MD 3-3_16				2		
		医療栄養学	MD 3-4_17				②		
		医療栄養学演習	MD 3-4_18					1	
		薬物治療学A	MD 3-2_19			②			
		薬物治療学B	MD 3-3_20			②			
		薬物治療学C	MD 3-4_21				②		
		薬物治療演習	MD 3-4_22				①		
		生物統計学演習	MD 4-1_23			①			
	臨床薬学分野	調剤処方学	CL 1-1_1			②			
		調剤処方演習	CL 1-2_2				①		
		医薬品情報学	CL 1-2_3				②		
		医薬品開発・治験論	CL 2-1_4				①		
		薬剤師関係法制度概論	CL 2-1_5				②		
		社会と薬学	CL 3-1_6			②			



系列	分野	科目名	薬学科分類 コード	配当時期及び単位数					
				1年	2年	3年	4年	5年	6年
専門科目	臨床薬学分野	コミュニティファーマシー論	CL 3-2_7				①		
		コミュニティファーマシーインターンシップ	CL 3-2_8				1		
		社会保障制度と薬学経済	CL 3-3_9						①
		看護・介護・社会福祉演習	CL 4-1_10			1			
		臨床心理学	CL 4-1_11			2			
		臨床検査学	CL 4-1_12					2	
		臨床分析学	CL 4-1_13					2	
		緩和医療学	CL 4-1_14					2	
		ハーブ論	CL 4-1_15					2	
		医薬品・食品・化粧品マーケティング論	CL 5-2_18					2	
	アドバンスト薬学分野	地域医療論	AP 1-1_1					②	
		医療薬学論	AP 1-2_2					②	
		法医薬実務論	AP 1-3_3					②	
		栄養・薬学マネジメント論	AP 1-4_4				②		
	実習・研究	薬学実習A	TR 1-1_1	②					
		薬学実習B	TR 1-2_2	②					
		薬学実習C	TR 1-3_3		②				
		薬学実習D	TR 1-4_4		②				
		薬学実習E	TR 1-5_5			②			
		薬学実習F	TR 1-6_6			②			
		臨床実習前講義A	TR 2-1_7				②		
		臨床実習前講義B	TR 2-2_8				②		
		臨床前実習A	TR 2-2_9				①		
		臨床前実習B	TR 2-2_10				①		
		薬局実習	TR 2-3_11					⑩	
病院実習		TR 2-3_12					⑩		
臨床後演習		TR 2-3_13					①		
選択実験		RS 1-1_1			1				
卒業研究	RS 1-2_2					⑩			

### 栄養・薬学アドバンストコースについて

栄養・薬学アドバンストコースを修得するためには、第6表に示されたすべての科目の単位を修得しなければならない。

また、3年次に開講の「食品調理加工学実習」を履修する者は、1年次の「医療における栄養」、2年次の「医療における食品学」と「基礎栄養学」（必修）の単位修得者とする。

なお、3, 4年次開講の科目については、履修制限を設ける場合がある。

第6表

学年	科目名	単位数	学年	科目名	単位数
1	医療における栄養	2	3	食品調理加工学実習	1
2	医療における食品学	2	4	栄養・薬学マネジメント論	2
3	食品機能学	2	4	医療栄養学演習	1
3	ライフステージ栄養学	2			

### 3. 関連科目

関連科目は、幅広い人間性を養う上で有用な科目であり、教養科目（人文系、社会系、自然系）外国語科目、体育関係科目及び語学教育センター講座科目から構成されている（第7表）。

関連科目は3年次終了時までには8単位以上を修得しなければならない。

#### 学年配当表

[薬学科]

第7表

系列	授 業 科 目	年次及び単位数					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
関 連 科 目	基礎化学計算	2					
	基礎物理学	2					
	物理学A	2					
	物理学B	2					
	データ・リサーチリテラシー論	2					
	スポーツ医学	2					
	倫理とは何か	2					
	現代社会と法Ⅰ（日本国憲法）	2					
	現代社会と法Ⅱ（国際法を含む）	2					
	人と文化	2					
	社会学A	2					
	心理学Ⅰ	2					
	近世の日本史Ⅰ	2					
	日本の文学Ⅰ	2					
	地域と風土	2					
	世界の中の日本A	2					
	世界の中の日本B	2					
	地域と大学	2					
	グローバル社会と女性	2					
	女性とダイバーシティ（女性の働き方）	2					
女性とキャリアデザイン（女性と企業）	2						
自校史研究（建学の精神と大学の理念）	2						
国際グローバル研修	2						

系列	授 業 科 目	年次及び単位数					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
関 連 科 目	海外研修Ⅰ	2					
	海外研修Ⅱ	2					
	海外研修Ⅲ	2					
	海外研修Ⅳ	2					
	Oral English I A	2					
	Oral English I B	2					
	資格英語ⅠA	2					
	資格英語ⅠB	2					
	留学英語A	2					
	留学英語B	2					
	English Communication I A	2					
	English Communication I B	2					
	ドイツ語ⅠA	2					
	ドイツ語ⅠB	2					
	ドイツ語ⅡA		2				
	ドイツ語ⅡB		2				
	中国語ⅠA	2					
	中国語ⅠB	2					
	中国語ⅡA		2				
	中国語ⅡB		2				
	スペイン語A	2					
	スペイン語B	2					
	韓国語ⅠA	2					
	韓国語ⅠB	2					
	韓国語ⅡA		2				
	韓国語ⅡB		2				
	フランス語ⅠA	2					
フランス語ⅠB	2						

系列	授 業 科 目	年次及び単位数					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
関 連 科 目	フランス語Ⅱ A		2				
	フランス語Ⅱ B		2				
	ハンガリー語A	2					
	ハンガリー語B	2					
	ポーランド語A	2					
	ポーランド語B	2					
	マレー語A	2					
	マレー語B	2					
	健康スポーツⅠ A	1					
	健康スポーツⅠ B	1					
	健康スポーツⅡ A	1					
	健康スポーツⅡ B	1					
	地圏環境	2					
	物理学実験(コンピュータ活用を含む)	1					
	地学実験 (コンピュータ活用を含む)	1					
	情報科学 (演習含む)		2				
	データサイエンス入門	2					
	データサイエンス入門と数理統計					2	
	機械学習と AI					2	
	データサイエンス特別講義Ⅰ					2	
	データサイエンス特別講義Ⅱ					2	
	応用 AI プログラミング					2	
	社会科学におけるデータサイエンス					2	
	ゲーム理論と AI					2	
	定量的政策評価					2	
	金融データ分析					2	
	文化研究Ⅰ	1					
	文化研究Ⅱ	1					

#### 4. 自由科目

第8表に示した科目は自由科目であり、卒業に必要な単位数には算入されない。

##### 学年配当表

[薬学科]

第8表

系列	授 業 科 目	年次及び単位数			
		1年	2年	3年	4年
	医薬品情報・マネジメント概論A		2		
	医薬品情報・マネジメント概論B		2		
	NR特講				1

## Ⅵ 授業科目の履修申請

各年次において履修しようとする授業科目は、学年初めの指定された期日に所定の方法（オリエンテーションで説明する）で履修申請をしなければならない。履修申請は、年間の受講計画をたて、**単位を修得する意思表示をする**学年初めの重要な手続きである。この履修申請を間違えたために、授業科目の履修ができなくなり、その結果進級はもとより、卒業ができなくなる場合もあるので、以下に掲げる注意事項を厳守して、誤りのないように履修申請をすること。

(1) 履修申請は、当該学部・学科の授業時間割表を参照し、曜日、時限、コマ・コード、授業科目名、開講期間、担当教員等を確認し申請を行なうこと。

\* コマ・コードとは、授業時間割表に授業科目名等と共に記載されている番号で、その時限の授業科目の固有の番号である。

(2) 履修申請をした後は、授業科目および担当教員などの変更、追加、取消しなどは認めないので、申請前に授業時間割表と照合してもう一度確認するなど、細心の注意を払うこと。なお、履修照合日が設けられているので間違いなく登録されているかどうか必ず確認すること。

(3) 履修申請をしていない授業科目は受講しても単位は認められないので、授業科目の申請にあたっては進級や卒業に必要な単位の算定を慎重に行ない、修得単位数が不足しないように万全を期すこと。

(4) 同一時限に2つ以上の授業科目を履修することはできない。

(5) 単位を修得した授業科目は、再度履修することはできない。

(6) 指定された期日までに履修申請を行わない場合は、学業の意思なしとみなし、**退学を命ずる**（学則第69条）。

## Ⅶ 正規の履修からはずれる場合

### 1. 再履修

過年度不合格となった科目を再度履修することをいう。原則として再履修クラスのある科目は再履修クラスで履修すること。ただし、再履修科目が修得すべき他の科目と時間割上の配置が重なるなどの問題があるときには、規定外履修すること。規定外履修クラスの履修が困難な場合、時間割外履修を申請し、単位修得の方法について、担当教員の指示に従うこと。

### 2. 規定外履修

該当するクラスの授業時間以外で受講せざるを得ない場合の履修を規定外履修という。その場合必ず学部事務室に相談すること（原則として1年次生は認めない）。

## Ⅷ 履修上の注意

### 1. 実験・実習科目について

実験・実習科目は、全て出席しなければならない。ただし、各実験・実習において5分の4以上出席した者には、単位の修得を認めることがある。

### 2. 上位学年に配分されている科目は履修できない。

ただし、留年者にあつては、未修得科目の再履修を最優先とするが、直上位学年に配分されている専門科目（必修）の講義の履修を認めることがある（上位学年特別単位修得制度）。

(1) 直上位学年に配分されている科目が履修できるのは、留年したその年度のみに限る（前年度以前に留年した学生が進級した場合、上位学年の科目を履修することは認めない）。

(2) 専門科目の演習および実習の履修は認めない。

(3) 履修可能な科目数の上限は、以下の計算式によるものとする。

直上位学年の科目数 - 留年学年以前の未修得科目数

(4) 成績評価は、正規の学年と同時期かつ同条件にて行われる。ただし、この成績評価は、その年度の進級判定には反映されない。

(5) 履修した科目の単位修得後、その学年に進級した場合、再度の履修は認めない。ただし、聴講は認める。

(6) 履修にあつては、当該科目を担当する教員の許可を必要とする。

(7) 履修希望者は、指定された期日に上位学年科目履修願を提出のうえ履修申請しなければならない。

(8) 科目によっては上位学年特別単位修得制度として履修できないことがある。

(9) 専門科目（選択）および関連科目の直上位学年に配分されている科目については薬学部事務室に問い合わせること。

### 3. 履修科目の登録の上限

履修科目として登録できる単位数の上限は、1学年当たり、基本科目（講義・演習）、専門科目（講義・演習・実習）及び関連科目を合わせて49単位までとする。ただし、自由科目の単位は上限の49単位には含めない。留学を希望する学生については、上記に定められた単位数を超えて履修単位の登録を認める場合がある。

## Ⅸ 試験について

### 1. 定期試験及び臨時試験

(1) 試験は、定期試験及び臨時試験とし、定期試験は原則として学期末又は学年末に行う。

(2) いずれの授業科目も原則として授業時数の3分の1以上欠席した者は、当該授業科目の



受験資格を失う（学則第 25 条）。ただし、病気又は、正当な理由による欠席の場合には、特別に考慮されることがある。

## 2. 試験に関する注意

- (1) 試験時間割は掲示により通知する。
- (2) 試験場内では、すべて監督者の指示に従わなければならない。
- (3) 受験者は、試験開始 10 分前までに試験場に入らなければならない。
- (4) 試験開始後は、遅刻者の入室は認められない。ただし、特別の事由により遅刻した者は、試験開始後 20 分以内までは入室を認めることがある。
- (5) 受験者は、試験終了後、監督の指示があるまで退場することができない。
- (6) 受験者は、必ず学生証を机上の見やすい所に置く。
- (7) 試験場では、持込みを許されたもの以外は、カバンの中に入れるか、机の中に入れておくこと。
- (8) 試験場では、一切物品の貸借は許されない。  
(ノート、参考書等の使用を許された場合には自分のものを使用すること)
- (9) 答案用紙には、必ず学籍番号、氏名を記入すること。答案用紙を場外に持ち出すことは許されない。
- (10) 受験者は、試験中監督者の許可を得ないで、試験場を出ることはできない。
- (11) 試験場内の座席は、監督者の指示に従うこと。
- (12) 不正行為をした者については、学則第 68 条により罰せられ、更にその年度における当該授業科目の単位の認定を行わない。
- (13) その期の授業料未納者は、受験できない。
- (14) 病気、事故その他正当な事由によって受験できなかった者は、欠席届に詳細な理由を記し、かつ学科目・担当者・クラス別に明記し、保証人連署のうえ、病気の場合は診断書を、その他の場合は事故を証明する書類を添付して、早急に科目担当者及び学部事務室に提出すること。

## 3. 追 試 験

- (1) やむを得ない事情によって定期試験を受験できなかった者は、当該授業科目担当教員の許可があれば追試験を受けることができる。(成績通知書に T の表示がある科目)
- (2) 追試験の受験を許可された者は、「追試験受験願」を学部事務室に提出しなければならない。  
追試験の受験料は、1 科目につき 200 円とする。(受験票は紛失、破損等のないよう注意すること)
- (3) 追試験は、履修（再履修を含む）した年度に限り受けることができる。
- (4) 追試験は、原則として学期末及び、学年末に実施する。

#### 4. 再 試 験

- (1) 定期試験の結果、不合格となった授業科目のある者は、当該授業科目担当教員の許可があれば再試験を受けることができる。(成績通知書にFの表示がある科目)
- (2) 再試験の受験を許可された者は、「再試験受験願」を学部事務室に提出しなければならない。  
再試験の受験料は、1科目につき1,000円とする。(受験票は紛失、破損等のないよう注意すること)
- (3) 再試験は、履修(再履修を含む)した年度に限り受験することができる。
- (4) 再試験は、原則として学期末及び、学年末に実施する。ただし、授業科目によっては再試験を行わない場合もある。

#### 5. 論文試験(レポート)

論文提出によって試験に代えることがある。再試験もしくは追試験として評価する場合は上記のそれぞれの手続は必要である。

### X 成 績 発 表

1. 成績発表は、Web成績照会システムを用いて行う。開示期間中に指定URLにアクセスし、確認すること。成績の評価は、下記XI GPAについての「GPの基準」を参照のこと。
2. 単位を修得した科目の再評価は行わない。
3. 成績についての疑問、質問などは早急に学部事務室に問合せること。

### XI GPAについて

本学では、「GPA (Grade Point Average)」制度を導入している。以下に示すことを十分理解しておくこと。

#### 1. GPAの意味

- (1) GPAの値とは、自分の成績を数値化したものである。学期毎や学年毎のGPAと入学からの通算のGPAを比較することで、自らの学習成果の推移を知ることができる。
- (2) GPAの値には、T評価、F評価およびZ評価を受けた科目についても計算に組み入れられる。したがって、安易に考えて開講期間の半ばで授業参加をやめた場合などは低い値となる。

#### 2. GPAの計算

「GPA」は、下記の基準に基づいて評価した成績のGP (Grade Point) に各科目の単位数を掛けて合計し、履修登録した科目の単位数の合計で割った1単位あたりのGP平均値(Average)

である。仮に、履修した科目の成績がすべて「S」評価の場合は GPA の数値は 4 になり、すべての成績が「C」の場合は 1 となる。

#### 「GP の基準」

成績評価 (表示)	評価の基準 (点)	合否	GP
S	100 ~ 90	合格	4
A	89 ~ 80	合格	3
B	79 ~ 70	合格	2
C	69 ~ 60	合格	1
F	59 以下	不合格	0
T	追試験受験可	未受験 (不合格)	0
Z	失格	不合格	0

$$\text{GPA} = \frac{[\text{GP} \times \text{当該科目の単位数}] \text{の合計}}{\text{履修登録科目の単位数の合計 (T 評価, F 評価, Z 評価科目を含む)}}$$

(注) 不合格となった科目を次年度以降に再履修して合格した場合には、成績は上書きされ、過去の不合格の成績は、GPA 計算式に算入されない。

(注) GPA 計算式に算入されない科目もある。

#### XII 試験における不正行為の懲戒について

試験における不正行為は厳禁とし、不正行為を行った受験生は厳正に処分する。不正行為に関する定めは本書「城西大学 学内試験等における不正行為の取り扱い指針」を参照すること。

#### XIII 薬剤師国家試験

試験方法・内容などの詳細については、厚生労働省からの連絡を待って通知する。

#### XIV 薬学部薬学科における卒業後に取得可能な主な資格

薬局の開設者・管理者 医薬品配置販売業 医薬品販売業の管理者 医薬品製造業の管理者  
 医薬部外品製造所の責任技術者 化粧品製造所の責任技術者 医療用器具製造所の責任技術者  
 毒物及び劇物事業管理者 麻薬管理者 麻薬輸入業の管理者 麻薬製造業の管理者 麻薬卸売業  
 の管理者 麻薬小売業の管理者 薬事監視委員 食品衛生監視員 食品衛生管理者 環境衛生指  
 導員 検疫委員 衛生管理者 作業環境測定士 環境計量士 危険物取扱者

## XV 病院実習・薬局実習について

実務実習（対応する科目は「病院実習」「薬局実習」：5年次に実施）については、原則として「病院・薬局実務実習関東地区調整機構」を介して協力施設に依頼して実施する。

学生が、実際に患者がいる実務施設で、間違いなく、かつ、高い質を保ちながら実務実習を行うために、学生は実習に必要な基本的な知識・技能・態度を修得していることが必要である。また、薬剤師でないものが実務施設で実習を行うために、実習前に共用試験【コンピュータ試験（CBT）および客観的臨床能力試験（OSCE）】に合格しなければならない。さらに、実務実習に先だって、学内において実務実習に対応した学習（対応科目「臨床実習前講義 A, B, 臨床前実習 A, B」）を行う。

### （1）コンピュータ試験（CBT：Computer Based Testing）

実務実習の開始前に学生の実務実習に必要な基本的な知識を主に評価するものである。学内のコンピュータを使用して、実施する。

### （2）客観的臨床能力試験（OSCE：Objective Structured Clinical Examination）

実務実習の開始前に学生の実務実習に必要な技能・態度を主に評価するものであり、模擬患者にどのように接するか、また、調剤を正しく実施するか、などを教員及び外部評価者（薬剤師）が評価する。なお、本試験は本学で実施する。

### （3）学内実務実習事前学習

実務実習に先立って、病院および薬局における調剤・製剤、患者対応などを模擬体験するため、学内において実務実習に対応した模擬実習を行う。